

Risk Flash No.190 (Vol.5 No.32)

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター
発行責任者：リスク研究センター長 久保英也

- 卒業生の視点：彦根学生時代の神秘体験・・・・・・・・・・・・・・・・・・Page 1
- 教員紹介：川井明・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Page 2
- リスク研究センター通信・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Page 2

卒業生の視点

彦根学生時代の神秘体験

みずのくにあき

水野久仁昭(大20回卒)

我等第20回生は、今の長曾根偲聖寮第1期生でした。旧制のバンカラに憧れた自分は、おんぼろの寮雨が降るといふ学内旧寮での生活を期待したのですが、残念ながら入寮選考をそこで受けただけで直に取り壊され、ペンキ臭の抜けきらぬコンクリート製の4階建て新寮に入ったわけです。そこは芹川河口、後から聞いた話ではかつて彦根藩の処刑場だったとか。新しいのはいいが、部屋はベッドで畳はなく鍵のかかる構造がいかにも薄っぺらな洋風でがっかりしました。さりながら、琵琶湖が眼前に広がる開放的な立地は素晴らしく、よく屋上に上がって琵琶湖周航歌をがなったり湖上を渡る新鮮な空気を胸一杯に吸いました。2回生になったばかりのある春の朝、快晴で陽光うららか、蕪村の句「春の海ひねもすのたり云々」を彷彿させる日でしたが、ぼーっと湖面を見ていた自分に、突然「久仁昭よ、しっかりやれよ」という声が琵琶湖から聞こえたんです。いい声でした。見渡しても誰もいないなんという僥倖！俺は神の声を聴いたとなんともいえぬ幸福感に包まれたものです。

もう一つ、3回生の時だったか、ぼろ自転車で一人湖北をめぐりつつ天橋立に行ったことがありました。帰途、雨の中ポンチョという上から自転車ごとすっぽりかぶるビニール合羽を着て夜の由良川ぞいを京へ走っている時、ふと気が付くと前方に黄色の丸い光輪がはっきりと見え、錯覚かと目をしばたたいても消えないんです。

それが自分を導いてくれているかの如し。山中の上りで夜ですから相当疲労も嵩じていたはずですが、その瞬間からペダルが軽くなり全く疲れを感じなくなりました。その間30分くらい、そのうちに雨が止んで光輪は消えてしまいましたが、まさに神秘体験といえるものでした。ひょっとして、自分は「選民」？と思いつつおかげ様で事故に会うこともなく無事に彦根の下宿に帰着しました。何のことはない、雨粒が目を伝わり水晶体が膨らんで前照灯の光が乱反射してたまたま光輪が見えただけのことと納得しましたが、その後多くの人に聞いてもそんな現象を経験したことはないというばかり。

ボート生活一色の中、いつしかそんな気分もどこかに行ってしまいました。

その後、浮世のちりにまみれた自分にはそれに類する体験は最早起こらず、今ではただの人、それで結構ではありますが、寄しくも近江の大自然が「よう来たな」と遠江生まれの自分へ与えてくれた激励だったのかなと勝手に思っています。あれからすでに40有余年、今更ながら、彦根に行ってもよかった、心より感謝多謝です。

教員紹介「川井明」

私は高度交通システム分野において研究を行ってきました。たとえば、携帯電話やカーナビゲーションシステム間で無線ネットワークを構築し、事故防止や、救命救急支援を行うための研究が挙げられます。

もともと私は車が好きで、趣味の一つはドライブです。車を利用する場面が多く、学生の時から、車両の走行特性、道路の特徴、都市の交通量分布を考えるようになりました。

近年、都市の人口および車の保有量の増加に伴って、大都市では深刻な交通渋滞と自動車排気ガスによる大気汚染が社会問題となっています。特に新興国ではPM2.5大気汚染の深刻な状況について、車の排気ガスが大きい原因だと指摘されています。観測データでは、渋滞道路のPM2.5濃度は一般の道路より数倍も高いことが明らかになっています。交通渋滞は道路交通のほか、環境保護の課題でもあります。渋滞の起因は多様にあるが、一つは非合理的な交通信号サイクルと思われます。例えば、ある道路に車両がほとんどないのに青信号が長く、直交している道路の上で車両が長蛇の列になっていることがよくあります。また、ある道路で赤信号を待っているとき、前方の交差点に無駄な青信号が点灯し、目の前の信号と入れ替えに赤になることもよくあります。うまく制御されている信号とそうでない信号が車両の実効速度や燃費、運転の安全性、さらに運転者の感情に与える影響の違いは非常に大きいと考えられます。

そこで、運転者と歩行者の安全性や、渋滞の解消、ドライバーの利便性の向上等を目的とした研究をいくつか行ってきました。また、複数の自動車が協調して歩行者の位置をドライバーに知らせ、事故防止を目的とする研究や、災害や大事故のとき、傷病者救命率の向上を目指し、情報通信技術を活用して傷病者を災害現場から病院まで搬送するスケジュールを最適化する研究など、複数の分野を融合する研究をこれからも発展していきたいと思っています。



かわい あきら
情報管理学科准教授 川井明

リスク研究センター通信

◆リスク研究センターは、平成26年12月18日(木)に滋賀大学大津サテライトプラザにおいて、韓国水環境産業セミナーを開催します。

<http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2/5/11:9>

社会における安全やウォン高に悩む韓国ですが、水環境産業分野では気を吐いています。

発展途上国における上下水道の整備や水の浄化などの分野で、数々の国際入札を制しています。

この韓国水環境産業の現状と水環境関連企業について解説するセミナーを開催します。

折りしも、平成27年4月には韓国のデグ市と慶尚北道において、世界有数の国際会議である「第7回世界水フォーラム」が開催されます。日本企業との協業を望む韓国企業の実情をご報告すると同時に韓国経済自由区域庁の専門家への個別のご質問、ご相談なども受ける機会を設けます。



「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター（以下、リスク研究センター）が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

【サービスの提供】

1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

【サービスの変更・中止・登録削除】

1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量が一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況にあった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

【個人情報等】

1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第59号）に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

【免責事項】

1. 配信メールが回線上的問題（メールの遅延、消失）等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

【著作権】

1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・改変して blog 等への掲載を希望される方は、事前に下記へお問い合わせください。

*尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

*当リスクフラッシュをご覧頂いて、関心のある論文等ございましたら、下記事務局までメールでお問い合わせください。

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター

**編集委員：ロバート・アスピノール、大村啓喬、菊池健太郎、
金秉基、久保英也、柴田淳郎、得田雅章、山田和代**

滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局 (Office Hours:月一金 10:00-17:00)
〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1 TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189

e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp

Web page : <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>